

各施設には、最新の研究を可能にする最先端設備をそろえています。

総合実験室



バイオメカニクス実験室



スポーツ心理学実験室



コーチ学実験室



社会調査データ処理室

スポーツ生理学実験室

その他様々な研究施設や実験施設があります。

合格体験記

中村 龍一 さん

出身高校: 京都府立鴨沂高等学校

スポーツ教育学科 4年 / 指導教員: 小林 博隆 准教授

事前課題プレゼンテーション・面接に臨むにあたり、どのような対策をとりましたか。

事前課題プレゼンテーションの作成、発表練習に多くの時間をかけました。自分が大阪体育大学で何を学びたいのか、そのためには何が必要かを、具体的に、わかりやすく伝えられるよう心がけました。また時間制限を考慮して、出来るだけ説得力を持たせるためにデータに基づいた問題提起をしました。面接においては、自分の考えを根拠ある形で表現できるよう、練習を重ねました。

「スポーツ科学特別演習」の授業ではどのような活動を行っていますか。

自分の研究分野について詳しく学習していません。私の所属するクラスでは、体育授業の作り方やコミュニケーションの取り方など、普段の授業ではなかなか学べない具体的な内容を教わっています。また、大学付近の小学校に出向いての出前授業も行い、1年生のうちから実践経験を積むことができました。クラスは少数精鋭で、担当教員的小林先生ともコミュニケーションが取りやすいです。

これから受験する後輩たちへアドバイスをお願いします。

「勉強したい!」という熱意を直接伝えられる、とても良い受験方法だと思っています。特にプレゼンテーションは想いを熱く語れるので、頑張って作り込んでほしいです。合格目指して頑張ってください!

北村 大貴 さん

出身高校: 近畿大学附属高等学校

スポーツ教育学科 4年 / 指導教員: 小林 博隆 准教授

事前課題プレゼンテーション・面接に臨むにあたり、どのような対策をとりましたか。

私は、面接と小論文は予備校で対策をしていました。面接は、班に分かれて数人の先生からランダムに質問を受け、頭を柔軟に回転させる練習を毎日行っていました。事前課題プレゼンテーションは、母校で担任の先生が毎日放課後につきっきりで見てくださいました。学校で配布されていたiPadを使ってスライドを何度も手直しし、発表は友達にも聞いてもらい、緊張感に対する練習も行っていました。本当に多くの人に支えられて対策をしていました。

「スポーツ科学特別演習」の授業ではどのような活動を行っていますか。

通常の授業とは違い、少人数で先生と意見交換ができます。ただ先生の話を聞くのではなく、テーマについて考えて話し合い、仲間の意見などを取り込んでさらに考えることが多いです。特に印象に残っているのは、小林先生が特別授業を行う小学校に同行し、授業のサポートをしたことです。実際に子供たちと話し、コミュニケーションを取りながら授業を作りました。1年生の時から教育現場に参加出来るのは、スポーツ科学特別演習にしかない貴重な経験だと思います。

これから受験する後輩たちへアドバイスをお願いします。

私は小論文がとても苦手で、毎日、登下校時に新聞を読んでいた。スポーツ界、教育現場で今起きている問題や出来事を知ることは、面接ではもちろん、小論文に必要な知識と文章力にも生かされました。自分の苦手や不安な点を毎日少しでも減らしていけば、確実に合格に近づけます。

スポーツ科学部 総合型選抜 スポーツ科学研究型 2024 sport sciences



大学ホームページ
<https://www.ouhs.jp/>



大学院ホームページ
<https://www.ouhs.jp/department/postgraduate/>



入試情報サイト
<https://www.ouhs.jp/nyushi/>



大阪体育大学
OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES

お問い合わせ | 〒590-0496 大阪府泉南郡熊取町朝台1-1
入試部 | TEL.072-453-7070 FAX.072-453-8970

学校法人 浪商学園
大阪体育大学大学院
大阪体育大学浪商中学校 大阪体育大学浪商高等学校
大阪青凌中学校 大阪青凌高等学校
大阪体育大学浪商幼稚園

重要なお知らせ 本冊子の記載内容は変更になる場合があります。必ず「2024年度 総合型選抜 学生募集要項」および本学ホームページ入試情報サイトをご確認ください。





募集人員 (アスリート型・自己表現型・スポーツ科学研究型)

○ スポーツ科学科 95名

※総合型選抜 (アスリート型・自己表現型・スポーツ科学研究型) の募集人員は、各型での公表はしていません。

スポーツ科学研究型

入試概要

評価ポイント

本学スポーツ科学部で学びたいという強い意志を有し、高校在学時の学習成績が優秀で、志望する学科でのスポーツ科学研究に高い関心を持ち、入学後に研究活動に積極的に取り組む意欲を有する者を期待する入試である。受験者から提出された「志願理由書」及び出身の高等学校から提出された「調査書」をもとに書類審査・事前課題プレゼンテーション・面接、小論文試験を実施。事前課題プレゼンテーション・面接は事前に公表している課題について、スライドなどの発表用資料を作成し、試験当日にプレゼンテーションを行った後に質疑応答形式の面接に答えることにより、総合的に評価、判定を行う。

出願資格

次の1.～4.のすべてに該当する者。

- 合格すれば入学することを確約できる者。
- 調査書全体の学習成績の状況が3.5以上の者。
- 下記(1)～(3)のいずれかに該当する者。
 - 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者、または2024年3月卒業見込みの者。
 - 通常の課程による12年の学校教育を修了した者、または2024年3月修了見込みの者。
 - 学校教育法施行規則第150条第7号の規定により、朝鮮高級学校を修了した者、または2024年3月修了見込みの者。
- あらかじめ指導を希望する教員による事前面談を受けた者。

選考方法

小論文 50点 + 事前課題プレゼンテーション・面接(個人) 50点 = 満点 100点

出願書類

- ①Web入学志願票 ②調査書 ③志願理由書

スポーツ科学研究型のスケジュール



1 事前面談申込

- 事前面談の予約は本学ホームページ入試情報サイトより、必要事項をご入力の上、お申し込みください。詳細につきましては、担当者から連絡します。※申込フォームは7月上旬頃に入試情報サイトに公開します。

2 事前面談シート提出

- 本学所定の事前面談シートに必要事項をご記入の上、提出してください。※事前面談シートは入試情報サイトからダウンロードしてください。(7月上旬公開予定)

3 事前面談

- 事前面談シート提出後、指導を希望する教員との面談を行います。
- 事前面談終了後、「事前面談修了証」を発行します。
- Zoom等のオンライン会議システムを利用してのオンライン面談も選択できます。

【面談内容】

- 事前面談シートに記載している内容の確認
- 教員の研究活動に関する説明
- 研究施設の紹介 など

(注) 面談内容が、合否に影響することはありません。

4 選考方法

小論文
事前課題プレゼンテーション・面接

事前課題プレゼンテーション

本学スポーツ科学部が設定した事前課題のテーマについて、プレゼンテーションしていただきます。発表方法は必ず事前に本学入試部にお知らせください。

時間 10分

テーマ 大学であなたが取り組みたい研究についてプレゼンテーションしてください。

発表方法 パソコン、タブレットまたは紙資料などを使用。

本学が準備できるもの

ノートパソコン (Windows10「Microsoft®PowerPoint® for office 365、Adobe Acrobat Reader」)、プロジェクター、スクリーン、プロジェクターへの接続ケーブル (RGB、HDMI)、変換ケーブル (DH-MHLHD20BK、Apple Lightning to Digital AVアダプタ、Apple USB-C to Digital AV Multiportアダプタ)

他に必要な機材や用具は、各自で準備してください。

面接

面接形式 個人面接

プレゼンテーションの内容についての質疑応答も含まれます。

入学後について

スポーツ科学研究型での入学者は、1年次の前期から指導教員が開講する「スポーツ科学特別演習」を必ず受講し、入学直後から、専門分野についての知識や技術を修得します。また、一定の条件を満たせば、入学時の指導教員のゼミ及び所属コースに限り優先的選択権(事前面談で希望した指導教員)を得ることができます。

「スポーツ科学特別演習」について

指導教員の専門分野について学んだり、実際の研究活動やフィールドワークを体験します。各教員の「スポーツ科学特別演習」の概要については、P3～P6をご確認ください。

Faculty Profiles

教員紹介



宮地 弘太郎 教授

スポーツ科学部
スポーツ科学科

専門分野
コーチング学(テニス)

研究キーワード
ゲーム分析、コーチング、パフォーマンス分析

profile 日本体育大学大学院博士前期課程トレーニング科学系 修士課程(体育学)修了。本学テニス部(男子)監督を務めるほか、ナショナルチームユニバーシアード男子ヘッドコーチも務めている(2013年

研究内容

試合映像を専用ソフトでデータ化→分析することを主としています。具体的には、テニスの試合におけるポイント、ゲーム、セット間でのパフォーマンス数値の比較や縦断的に比較を行っています。さらには、ポイント間(OUT OF PLAY)での選手の振る舞い方などを言語化し、比較・省察を行うといった、コーチ行動の向上に繋がる項目に関して分析を試みます。ゲームの勝敗は、選手自身のパフォーマンスだけではなく、対戦相手や環境など、影響を及ぼす条件は多くあります。科学に基づいた適切な指導を行うためには、様々な状況下からデータを収集し、横断的・縦断的に検証しています。常に「現場に貢献できることは何か」を問いながら、データの収集・分析と研究に取り組んでいます。

スポーツ科学特別演習

主に、ゲーム分析の目的、役割について学習し、フィードバックの方法論について学び、実際にソフト、機材を使いこなす反復を行います。



貴嶋 孝太 准教授

スポーツ科学部
スポーツ科学科

専門分野
スポーツ科学

研究キーワード
動作、パフォーマンス、トレーニング、コーチング

profile 大阪体育大学大学院博士後期課程単位取得退学。国立スポーツ科学センター研究員を経て現職。日本オリンピック委員会強化スタッフ、日本陸上競技連盟強化委員会スタッフ、同連盟科学委員会委員、関西学生陸上競技連盟強化委員会ヘッドコーチ補佐、大阪体育学会理事などを務める。

研究内容

一流選手と呼ばれる、卓越した技術や能力を持つ選手たちは、「なぜ速く走ることができるのか?」「なぜまいのか?」に興味を持ち、ヒトが運動・スポーツをする際の動作から「速さ」や「うまさ」、「力強さ」などを分析しています。その結果をもとに、技術を理解したり、能力を高めたりするためのヒントを見出す研究を行っています。具体的には、短距離走選手のスタートダッシュや最高速度で走っているときの動作を分析し、速く走るために必要な技術や体力を調べようとしています。その他、マスターズ短距離選手の走動作の研究や、車いす短距離選手の漕動作の研究なども行っています。

スポーツ科学特別演習

主に、歩・走・跳・投動作を対象に、ヒトの動きを分析するための基礎として、測定機器の取り扱い方やデータ分析処理ソフトの使い方、図や表のまとめ方を教授します。



藤原 敏行 教授

スポーツ科学部
スポーツ科学科

専門分野
スポーツバイオメカニクス、体操競技のコーチング

研究キーワード
運動技術分析、動作分析、コーチング、体操競技・器械運動

profile カナダのアルバータ大学で博士号を取得。カナダ滞在中に、体操競技指導者として年代別のナショナル選手を複数名育成した。現在、本学体操競技部(男子)監督として日々の現場指導と、バイオメカニクス分野の研究活動を精力的に行っている。

研究内容

体操競技選手であった経験から、様々な技の技術を感じだけでなく、科学的に理解したいと思い、スポーツバイオメカニクスという分野に進みました。運動をより巧みに、そしてより安全に行うために、身体の構造や運動動作の仕組みを研究しています。これまでの研究の中で特に題材としているのは、あん馬の旋回運動です。回転のメカニズムや身体への負荷、技術的ポイント、伝統的な練習方法などを、科学的に分析、評価をしています。最近では、練習中に体育館で科学的データを取得し、そのデータをすぐに利用しながら練習するシステムの開発に力を入れています。

スポーツ科学特別演習

より長期的な視点を持ってもらうため、研究に関わる基礎的な内容から固めるとともに、研究活動の最前線にも関わる経験を積めるような機会を提供したいと考えています。



中房 敏朗 教授

スポーツ科学部
スポーツ科学科

専門分野
スポーツ史

研究キーワード
フットボール、用具・施設、概念、社会史

profile 奈良教育大学大学院修了。日本空手協会宮城県本部常任理事、スポーツ史学会理事、スポーツミュージアム連携・啓発事業実行委員などを歴任。

研究内容

皆さんが親しんでいる野球、サッカー、テニス、陸上競技、体操、スキーなどにも、実は様々な歴史があります。過去の歴史には忘れ去られた事柄も多いのですが、そのような埋もれた過去の事実を掘り起こし、現在のスポーツがどうしてできたのかを研究しています。具体的には、ラグビーやサッカーが生まれる以前のフットボールはどう形作られたのか、19世紀以降の欧米ではどんなスポーツ雑誌があったのか、中世イギリスのボール・ゲームの史料はどれくらい残っているのかなどです。最近の著作には、共著の『スポーツの世界史(一色出版)』など。現在は『スポーツの世界史』という洋書を同僚の先生とともに翻訳中(2021年5月1日現在)です。

スポーツ科学特別演習

史料(現在は1964年の東京オリンピック当時の新聞や雑誌記事など)を読み込んで多様な読解に努め、所見を発表することを繰り返します。



森田 啓 教授

スポーツ科学部
スポーツ科学科

専門分野
体育哲学、スポーツ哲学、スポーツ教育学

研究キーワード
善と正、存在と為

profile 筑波大学大学院博士課程修了。博士(体育科学)。日本体育・スポーツ哲学会理事、日本体育・スポーツ・健康学会(体育哲学専門領域運営委員会委員)。

研究内容

体育(身体教育)とは何でしょう? また、体育・スポーツに関する問題はなぜ起き、どうすれば解決するのでしょうか? 私は体育哲学、スポーツ哲学を通してそういった疑問に迫り、問題の解決法や改善法を検討しています。例えば、多くの体育教師は運動が得意ですが、実は運動が苦手な教師の方が、同じく運動嫌いの子どもを上手に教えることができるのではないかと。また例えば、リアルなスポーツではしばしば経済事情によってプレイ環境に格差が出る一方、eスポーツはネットにつながれば誰でも平等といわれます。今後、リアルなスポーツに、eスポーツはどのような影響を与えていくのか。より良い体育・スポーツの在り方を探求することに、魅力を感じています。

スポーツ科学特別演習

体育の目標・内容・評価は適切か、体育による二極化、格差、いじめ。体罰・ハラスメント。スポーツによる格差、行き過ぎた勝利至上主義、ドーピング、八百長、環境破壊など、具体的な問題から考察します。



小林 博隆 准教授

スポーツ科学部
スポーツ科学科

専門分野
学校体育

研究キーワード
体育授業、授業づくり、体力・運動能力

profile 北海道教育大学大学院修了。教員免許状更新講習に、企画・運営や講師として携わる。また各自治体の教育委員会や学校と連携し、体育の出前授業や授業研究、教員研修にも取り組む。

研究内容

「よい保健体育教師」には、体育(保健)の科学的知識を習得し、これらの知識を実践の場面で効果的に発揮できる能力が求められます。では、「よい体育授業」とはどんな授業を指すのでしょうか? 私は「よい体育授業」のための授業づくり、教材・教具づくり、教師行動などを中心に研究し、学生や現職教員の方も交えて日々議論と意見交換をしています。また大阪府内を中心に、近畿圏の幼稚園・小学校・中学校に年間50日程度出向いて、現場での教育活動や研究活動にも取り組んでいます。なお、研究室でのこれら教育・研究活動の成果は、YouTube「大阪体育大学小林研究室」や、教員向けの機関誌「教室の窓/保健と体育の情報誌(東京書籍)」の連載で随時発信しています。

スポーツ科学特別演習

学んだ知識を、実践の場面で効果的に発揮できるようにすることをめざします。各種学校に出向き、現職教師の授業を参観、時には出前授業や運動指導を行うなど、常に学校現場を意識した活動を展開します。



菅生 貴之 教授

スポーツ科学部
スポーツ科学科

専門分野
スポーツ心理学

研究キーワード
スポーツ選手の心理支援、スポーツメンタルトレーニング、自律訓練法

profile 日本大学大学院修了後、国立スポーツ科学センター研究員を約4年間務め、現在に至る。日本ゴルフ協会オリンピックゴルフ競技対策本部医科学部会委員、メンタルコーチとしても活動中。

研究内容

スポーツメンタルトレーニングは、試合などの重要な場面で緊張や不安などをうまくコントロールし、実力を十分に発揮できるようにするためのトレーニングです。私はこのトレーニングのなかでも、自分自身で心の状態を整えセルフコントロールする「自律訓練法」の研究をしています。スポーツ選手に「自律訓練法」を練習してもらい、ストレスが減少しているかどうかを様々な数値から検証します。例えば質問紙を使って心の状態や考え方などを得点化し、だ液の中に含まれる「コルチゾール(ストレスホルモン)」という物質の量の測定により、選手のストレス状態を把握します。「心の状態を生理・心理学的な指標で測る」というのが、私の研究といえます。

スポーツ科学特別演習

ゼミやスポーツメンタルトレーニングチームの研究に参加して、具体的な実践方法を身に付けます。ゼミでは基礎研究の方法論や基礎的な技法を学び、大学院ではより高度で専門的な研究の方法論を学びます。



土屋 裕睦 教授

スポーツ科学部
スポーツ科学科

専門分野
スポーツ心理学

研究キーワード
メンタルトレーニング、チームビルディング、スポーツカウンセリング

profile 筑波大学大学院修了。博士(体育科学)。スポーツメンタルトレーニング上級指導士、公認心理師。日本代表選手やプロスポーツチームのメンタルトレーニング指導、国体開催のメンタルアドバイザーを担当している。

研究内容

大会などでアスリートが実力を発揮するためのメンタルトレーニングの方法を科学的に研究し、現場で指導しています。具体的には、やる気を引き出す、集中力を高める、緊張を力に変える、チームワークをよくする方法などです。それらを実際に使えるような、効果的なトレーニング方法を開発しています。このようなメンタルトレーニングは、一般の方が日常生活を送る上でも効果的で、広く社会に伝え、役立ててもらいたいと思っています。これまでに、チームづくりの実践研究において日本スポーツ心理学会賞、選手の燃え尽き予防の研究で日本体育学会奨励賞などを受賞しました。著作には、『よく分かるスポーツ心理学(ミネルヴァ書房)』などがあります。

スポーツ科学特別演習

大学院生が中心となって活動する「スポーツメンタルトレーニングチーム」の一員として、研究会や事例検討会に参加したり、選手へのサポートや指導に帯同して知見を深めます。また希望者には、学外の実習にも参加できる機会を提供します。



平川 武仁 教授

スポーツ科学部
スポーツ科学科

専門分野
スポーツ心理学

研究キーワード
知覚運動制御、運動学習

profile 筑波大学大学院博士課程修了。博士(体育科学)。日本体育学会、日本スポーツ心理学会でも活動。2003年日本スポーツ心理学会最優秀論文賞、2006年日本スポーツ心理学会優秀論文奨励賞受賞。

研究内容

スポーツ心理学では、技能の習得や向上について、心理的な側面に加え、知覚運動制御や運動学習という観点からみていくことができます。私の研究テーマは、「スポーツの熟練者はなぜ巧みな身体動作が可能なのか」です。合理的な運動に必要なとする知覚と身体動作との関係を、スポーツ心理学の視点から探っています。研究活動で、人間が同じ動作を反復するとき、産業用ロボットのように全く同じ運動結果にはならず、僅かながらその動作にはバラツキが出るのが分かりました。このバラツキと熟練の度合いや動きの速さとの関係についての構造を明らかにする研究もしています。

スポーツ科学特別演習

知覚運動制御と運動学習の理論的知識を中心に学びつつ、スポーツや運動をする時の心理的変化、技能習得および習熟時での心理的な違いをとらえるスポーツ心理学全般も学べるカリキュラムを構成します。



石川 昌紀 教授

スポーツ科学部
スポーツ科学科

専門分野
神経・筋メカニクス、バイオメカニクス、トレーニング科学

研究キーワード
パワー、トレーニング

profile フィンランドのユバスキュラ大学でスポーツ科学の博士号を取得。国・内外での共同研究、トップアスリートのサポートや測定・トレーニング機器開発に取り組んでいる。

研究内容

ヒトの運動能力の可能性と限界をトップアスリートの測定やサポートを通して解明し、トレーニングや測定・評価できるシステム開発を行っています。ヒトの運動能力は、単に筋肉の大きさだけで決まらず、腱のバネ作用や予測・反射による筋肉の制御でパフォーマンスを高めることができます。様々な身体運動を可能にする人類の走・跳・投・打・泳・滑の運動能力を高めるメカニクスの解明は、アスリートのトレーニング方法や、めざすべき課題設定、リハビリテーションに役立てることが出来ます。これらの研究成果をトップアスリートを中心に現場に活かすサポート活動に取り組んでいます。

スポーツ科学特別演習

ハイパフォーマンス研究・サポート拠点を利用する、国内外のトップアスリートが抱える課題に対して、スポーツ科学からのアプローチでサポートできる取り組みを考え、大学で学ぶ知識と実践の融合をめざします。



下河内 洋平 教授

スポーツ科学部
スポーツ科学科

専門分野
スポーツ医学、アスレティックトレーニング、バイオメカニクス

研究キーワード
アスレティックトレーニング、スポーツ傷害予防、パフォーマンス向上

profile アメリカにおいて、ミネソタ州立大学マネット校でアスレティックトレーナーの免許、ノースカロライナ大学グリーンズボロ校にて博士号を取得。本学ハンドボール部(女子)コーチ(トレーナー)として身体作りや基本的な動きの指導を担当し、日本アスレティックトレーニング学会代議員、日本トレーニング指導者協会(JATI)国際研究委員などを務める。

研究内容

スポーツ中に生じる急性のスポーツ傷害の多くは、急激なストップ・着地・方向転換動作などの動作中に頻りに発生します。本研究室では、このようなスポーツ傷害が生じる仕組みやその予防、またはスポーツ傷害発生要因となるものは何かということテーマに研究しています。近年では、アスリートのスポーツ傷害の発生率を高める要因と、身体運動のパフォーマンス向上を妨げる要因の共通点や非共通点を明確にすることをテーマに、現場指導に還元できる科学的知見の創出に励んでいます。これらの研究から生み出された知見は、国内外の学術誌や学会における発表はもちろん、国内・国際シンポジウム、または講習会などの講演活動を通して公表しています。

スポーツ科学特別演習

自分の分からないことや知りたいことを明確にし、それを明らかにするためのデータ測定や分析を行い、分析結果の意味を考え、それを現実社会に応用する方法を学びます。これらの活動を通して、スポーツにおける科学的指導や実践の本質を考え、応用力、創造力、実践力を養います。



富山 浩三 教授

スポーツ科学部
スポーツ科学科

専門分野
スポーツマネジメント

研究キーワード
コミュニティスポーツ、地域活性化、街づくり、社会貢献、スポーツ推進

profile 鹿屋体育大学大学院体育学研究科(修士課程)修了。スポーツ科学博士(大阪体育大学)。アメリカ・オールド・ドミニオン大学(2000年)、アメリカ・イリノイ州立大学(2010年)、ドイツ・ケルン体育大学(2017年)の客員研究員を歴任。日本スポーツマネジメント学会理事を務める。

研究内容

スポーツイベントへの参加や、地域のプロスポーツチームを応援することは、住民同士の人間関係を深める働きや、地元地域の良いところを再発見させる効果があり、街に愛着が深まるといわれています。本研究室では、Jリーグのサポーターや地域スポーツクラブで活動する人が、どのように地域愛着を深めていくのかを明らかにしてきました。現在は、「各地で開催されるスポーツイベントが、地域社会やそこで暮らす人々にどのような影響を与えるか」について研究しています。また、「国民のスポーツ実施率を65パーセント程度に高める」というスポーツ庁が示した「第二期スポーツ基本計画」に照らして、どうすればスポーツをしていない人が、スポーツに興味を持ち、実際にスポーツを始めるのかといった研究も行っています。

スポーツ科学特別演習

フィールドワークを多く取り入れ、ゼミや大学院でのデータ収集に参加して、課題発見能力や研究テーマを設定する能力を高めます。また様々な文献を読み、文章力を高めるとともに、データ分析力も付けていきます。



藤本 淳也 教授

スポーツ科学部
スポーツ科学科

専門分野
スポーツマーケティング

研究キーワード
スポーツマーケティング、消費者行動、プロスポーツ、大学スポーツ

profile 鹿屋体育大学大学院体育学研究科修了。大阪体育大学助手、イリノイ大学客員研究員、フロリダ州立大学客員研究員を経て現職。日本スポーツマネジメント学会理事、大学スポーツ協会理事、日本アスリート会議理事、日本生涯スポーツ学会理事などを務める。

研究内容

主にプロスポーツリーグやクラブとの共同プロジェクトとして、ファンを対象とした調査研究を行い、ファンの特性や行動を解明し、ファンの増加、観客の増加、スポンサー獲得などに繋がる研究をしています。その他にも大学スポーツやeスポーツに関する研究にも取り組んでいます。近年では、ソーシャルメディアの有効活用がファンの行動に影響することやサッカーゲームを用いて、特定のチームでプレイし続けることで、そのチームへの関心や愛着、試合観戦意欲が高まることが分かってきました。今後も、研究を通してファンや観客の増加、スポンサーの獲得に繋がる可能性を模索します。

スポーツ科学特別演習

ゼミ活動の中でも演習への参加を通して、スポーツマーケティングに触れてもらいます。また、スポーツマーケティングの事例研究を通して、リサーチ力、分析力、行動力、プレゼンテーション力の向上を図ります。



伊原 久美子 教授

スポーツ科学部
スポーツ科学科

専門分野
野外教育

研究キーワード
野外教育、冒険教育、キャンプ

profile 筑波大学大学院修了。日本野外教育学会理事、大阪府レクリエーション協会課程認定校連絡会幹事、他多くの団体に委員を務める。

研究内容

野外教育に代表されるキャンプは、自然の中で行うため、寒さ、暑さ、暗闇、強風といった人間の力ではどうにもならないことに直面します。このように自然が与えてくれる課題は人間の力ではコントロールできないので、受け入れ、向き合い、乗り越えるしかありません。また、どんな人にも平等なので、能力の違う人間同士が助け合うしかないのです。私の研究テーマは「なぜ、自然の中で人が成長するのか?」です。研究成果をもとにスポーツチームを対象としたチームビルディングキャンプや、子ども達の育成をめざしたキャンプの企画、指導を行っています。キャンプでは登山や自転車、無人島サバイバルといった様々な野外活動を実施します。これらの野外教育を行うことによる効果や気づきを明らかにし、より効果的な活動をするための方法や、指導法を探る研究を行っています。

スポーツ科学特別演習

スポーツチームを対象としたチームビルディングキャンプや、子ども達の育成をめざすキャンプなどの野外教育を実践します。また自分たちで企画したキャンプを実際に開催したり、設定されたテーマに沿った発表活動なども行います。



徳山 友 准教授

スポーツ科学部
スポーツ科学科

専門分野
スポーツビジネス、スポーツマーケティング

研究キーワード
マーケティングプロセス、セグメンテーション、スポーツ消費動機

profile アメリカのルイビル大学にて博士号取得。国内の大学で勤務を経て現職。本学硬式野球部(男子)のコーチを務めるほか、スポーツ組織やチームへの助言、ラジオ番組への出演など多彩に活動中。

研究内容

私がスポーツビジネスを学んだアメリカは「スポーツ超先進国」で、その規模は日本とは比較になりません。文化としてのスポーツ成熟度が高いのはもちろん、スポーツがビジネスとして捉えられ、市場の競争を通じて価値を確立しています。私はアメリカでの学びを通して、スポーツ消費を促進させるための研究に興味を持ちました。顧客(スポーツ消費者)のニーズや消費動機などの行動特性「スポーツ消費者行動」を分析することや、ターゲットとなる顧客群を的確に決定する市場の細分化(セグメンテーション)を行い、論文や著作で研究結果を発表しています。日々の研究を通じて、微力ながら日本のスポーツ市場の成長に貢献できればと考えています。

スポーツ科学特別演習

スポーツ産業におけるビジネスに関する基礎知識の修得をめざし、課題に取り組みでもらいます。また研究室で実施する、ケーススタディを用いた勉強会や調査活動にも参加してもらいます。



池島 明子 教授

スポーツ科学部
スポーツ科学科

専門分野
運動生理

研究キーワード
楽しく健康づくり、ノルディックウォーク

profile 京都府立医科大学大学院修了。熊取町を中心に地域の健康づくりに関するイベントを多く開催する他、地域の健康体操の立案・作成にも尽力している。

研究内容

折角歩くなら、運動効果の高い歩き方をしたいもの。そこで着目したのが、スキーのストックのようなポールを地面に突きながら歩く「ノルディックウォーキング」です。これまでの研究で、普通のウォーキングに比べて「しんどさ」が少ない一方、約6%運動量やカロリー消費量が多いことを解明してきました。今後は、ノルディックウォーキング教室に週1回参加するだけで教室のない日も自主的に歩く量が増えることを証明するなど、中高年の健康づくりや介護予防、認知症予防にも役立つ具体的で楽しく、継続したいと思える効果的なプログラムを作る研究を行います。

スポーツ科学特別演習

高齢者の健康づくり運動教室(体操、筋力トレーニング、レクリエーションなど)、小学生の放課後居場所づくり教室(走り方や投げ方指導、ニュースポーツなど)といった実践の場を多く経験し、研究課題を見つけましょう。



三島 隆章 教授

スポーツ科学部
スポーツ科学科

専門分野
スポーツ生理学

研究キーワード
骨格筋、筋疲労、筋小胞体

profile 大学卒業後、トレーニングクラブに就職するも、広島大学大学院生物園科学研究科博士課程前期へ進学、同大学院後期を単位取得退学した後、学位を取得(博士(学術))。専門の研究領域は、スポーツ生理学。

研究内容

激しい身体活動を継続して行くと、次第に発揮できる筋力が低下していきます。この現象は「筋疲労」と呼ばれ、筋肉中に乳酸が蓄積すること、また乳酸の蓄積によって筋肉中のpHが低下することが要因だと長らく認められていました。しかし、近年の研究の結果ではこの説が覆り、乳酸が筋疲労の要因として否定され始めたのです。そこで、新たな筋疲労の要因を突き止めるのが私の研究目的で、特に、細胞内のカルシウムイオン濃度を調整する役割を担う「筋小胞体」という構造に着目し、筋疲労に伴う機能変化について研究を進めています。また、骨格筋から取り出した「単一筋線維」を用いた実験ができるよう、現在、研究環境を整備しているところです。

スポーツ科学特別演習

まず、スポーツ生理学に関して興味のあるテーマを大まかに決めた後、関連する先行研究を読み込んでいきます。続いて、研究の遂行に必要な実験手法の紹介および実験手法の習得を行う予定です。

事前面談シート提出方法と 希望する教員との事前面談までの流れ

STEP1 事前準備・記入

- 事前面談シート(A4サイズでプリントアウトしたもの)
- 証明写真(3cm×4cm 3ヶ月以内に撮影したもの、裏面に氏名を記入)
- 角形2号(角2)封筒(240mm×332mm)
- 各欄記入漏れのないようにしてください。
- 『現住所および連絡先』は本人との連絡が取れるもので、変更する予定がないものを記入してください。
※万が一変更があった場合は必ず本学入試部まで連絡をしてください。
- Zoom等のオンライン会議システムを利用したオンライン面談も選択できます。

STEP2 提出

- 事前面談希望日の7日前までに提出してください。
- 角形2号(角2)封筒に『事前面談シート在中』と朱書きしてください。
- 記入した事前面談シートは折らずに角形2号(角2)封筒に入れ、次の住所に簡易書留・速達で送付してください。

〒590-0496
大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1
大阪体育大学 入試部

STEP3 事前面談日時の決定

- ・事前面談シートに記入された連絡先に日時の詳細等を連絡します。
- ・面談日時決定後の日程変更はできません。

STEP4 事前面談

- ・事前面談は本学へ来学いただくか、オンラインでのどちらかを選択していただきます。
- ・事前面談の内容は事前面談シートの内容の確認、教員の研究活動に関する説明、研究施設の紹介などを面談する教員から行います。

事前面談終了後、「事前面談修了証」を発行します。

※面談内容が合否に影響することはありません。

お問い合わせ先:大阪体育大学 入試部 TEL:072-453-7070